地域の子どもたちを招いて
キッズオープンキャンパス

キーワード　知的好奇心・学びの場の実践・異世代交流・地域連携

○取り組んだきっかけ

大学は、地域や社会の知の拠点として、地域の方の生涯学習等の様々な活動を支えると同時に、地域や社会の課題を共に解決し、その活性化や新たな価値の創造への積極的な貢献が求められています。
地域に存在しながらも子どもたちになってはなかなか足を踏み入れることが少ない大学で、学びの場を提供する、夏休みの自由研究のヒントにする等、見聞を広げることに役立ててほしいと考え、2012年度より「キッズオープンキャンパス」を開催しています。
学生と教職員が力を合わせ、地域の子どもを始めとして様々な方との交流する機会を創出し、大学への理解を深めてもらおうと取り組みを始めました。

○活動の目的

この「キッズオープンキャンパス」は、子どもたちの知的好奇心を引出し、夏休みの自由研究にも役立ててもらうことを目的とし、学生が主体となり講座を開設しています。学生にとっては、事業を運営するしくみを学ぶ機会となり、また、日頃の学びを実践する場としても活用しています。異世代の方々との交流を通じて、コミュニケーション能力を養う場となり、また、他学科の学生と交流の場にもなっています。

○具体的な内容

令和4年度で10回目を迎える「キッズオープンキャンパス」は例年200名を超える学生が、各学科での学びやサークルでの活動を実践する機会として講座を開設し、地域の小学生を対象に学びの場を提供しています。当時、小学生だった参加者も今は大学生に。なかには、この事業に参加したことがあるという学生も出てきています。

キッズオープンキャンパス参加者数推移

年度	講座数	参加者数	学生・教職員数
2012	16	760	不明
2013	19	945	179
2014	18	1260	184
2015	19	1309	223
2016	20	1276	214
2017	19	1329	212
2018	21	1371	304
2019	22	1454	265
2020	18	オンライン(web対応)	
2021	18	515	210

2021は感染対策のため、定員を絞って実施。

講座は、自然、ことば、からだのしくみ、化学、食、地産地消、運動、防災、防犯等、幅広いテーマで開催しています。例えば、「光るどろだんごつくり」では、木村ゼミ(心身マネジメント学科)の学生が、室内で安全に遊ぶことができ、心を落ち着かせたり、集中力を向上させる効果もある「どろだんご」について実際に作りながら説明し、クイズを実施して振り返りをします。「英語で楽しく遊びましょう！」では、子ども健康学科の学生有志が、「Hello」の曲のほか3 曲を実演し、ピアノ演奏に合わせながら、英語の歌を笑顔いっぱい歌って踊りました。「遠州しらすを使ってかりんとうつくり」では、食プロデュースサークル(健康栄養学科)の学生が、地元の特産品に興味を持ってもらうため、「遠州しらす」を使った「かりんとう」作りについて講義しました。しらすに関する食育クイズを行った後、子どもはかりんとう作りを体験しました。
「おやこでまなぼうさい」では、ボランティアや地域貢献活動を積極的に行う団体の学生が、地震がきたときの対応や、緊急時に備えた非常持ち出し袋の必要性を講義した後、AEDの使用方法等防災に役立つ知識を伝えました。また、浜松市、浜松市消防署、細江警察署、三遠ネオフェニックス、はままつフラワーパークなどと連携し、体験コーナーを設置したり、ゆるキャラを提供していただき交流の場を設けたり、年代問わず、楽しめるアトラクションも用意しました。

○期待される効果

本年で10回目を迎える本事業は、開かれた大学づくりの一助になっており、地域の方々が、この事業をきっかけに大学に足を運んでくださることで、知的好奇心を高めること、異世代交流の活性化にもつながると期待しています。また、参加した子どもたちの小さな発見や気づきが、学問への興味関心につながることを願っています。さらに、学生たちにはこの経験を後輩へと引継ぎ、持続的な学びと発見につながることを期待します。

担当者名　地域貢献センター(HUVOC)
所属　浜松地域貢献課

連携先
浜松市、浜松市消防署、細江警察署、三遠ネオフェニックス、はままつフラワーパークなど